

ヤクシカによる植生被害及び回復状況〔モニタリング ID11 関連〕

1. 調査概要

既存の植生保護柵による植生回復状況を確認するための調査を実施した。今年度は、平成15年度に小杉谷に設置された4箇所の柵（図1）の内外で植生調査を行った。調査方法は、過年度調査業務で植生保護柵内外に設定された小コドラート（1m×1m）を対象に、下層植生の種名及び個体数、被度を記録した。現地調査は、令和5年9月17～19日に実施した。

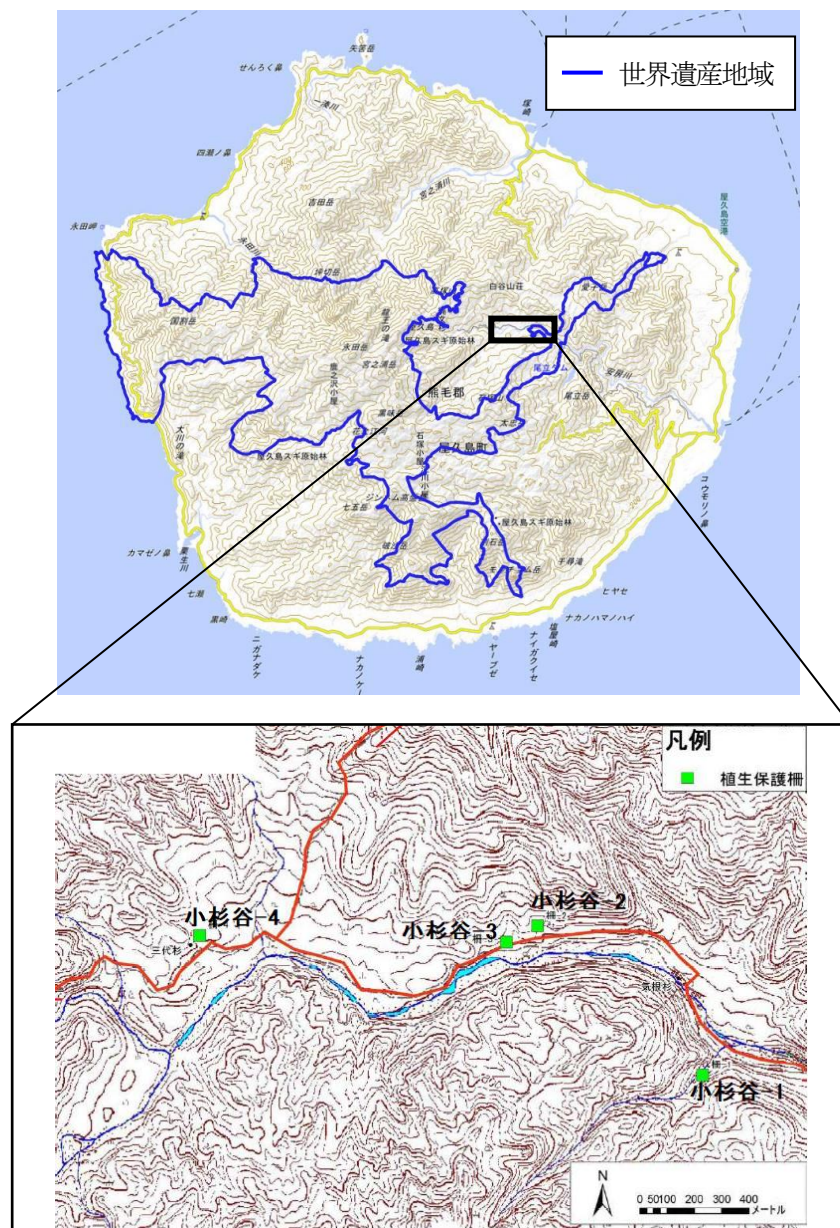


図1 モニタリング地点

2. 調査結果

(1) 植生保護柵内外の確認種数の比較

- ・ 植生保護柵内外における小コドラート内の種数を図2に示す。
- ・ 柵の内外で種数に大きな差は見られなかった。
- ・ 平成 28 年度と比較すると小杉谷 1 の柵外で種数が増加していたが、シカの採食によりほとんどの種が矮生化しており、植生が健全な状態ではなかった。

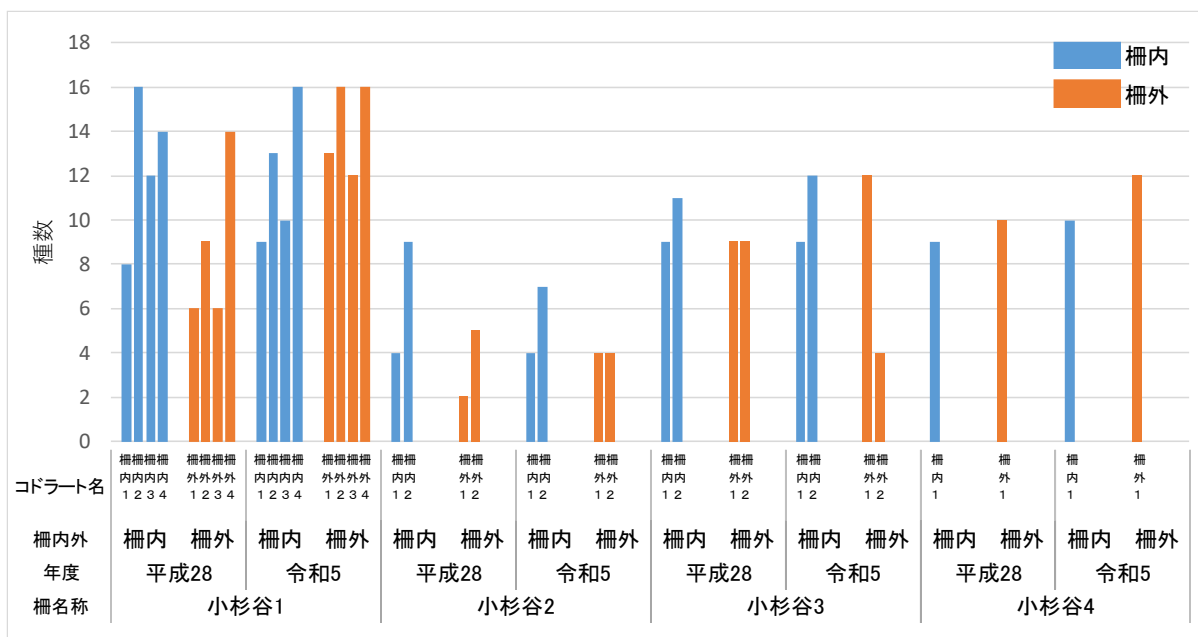


図2 植生保護柵内外の確認種数の比較

(2) 植生保護柵内外の植被率の比較

- ・ 植生保護柵内外における小コドラート内の全体植被率を図3に示す。
- ・ 柵外と比較して柵内では植被率が高い傾向が見られた。
- ・ 平成28年度と比較すると柵内、柵外ともに、多くの小コドラートで植被率が増加していた。

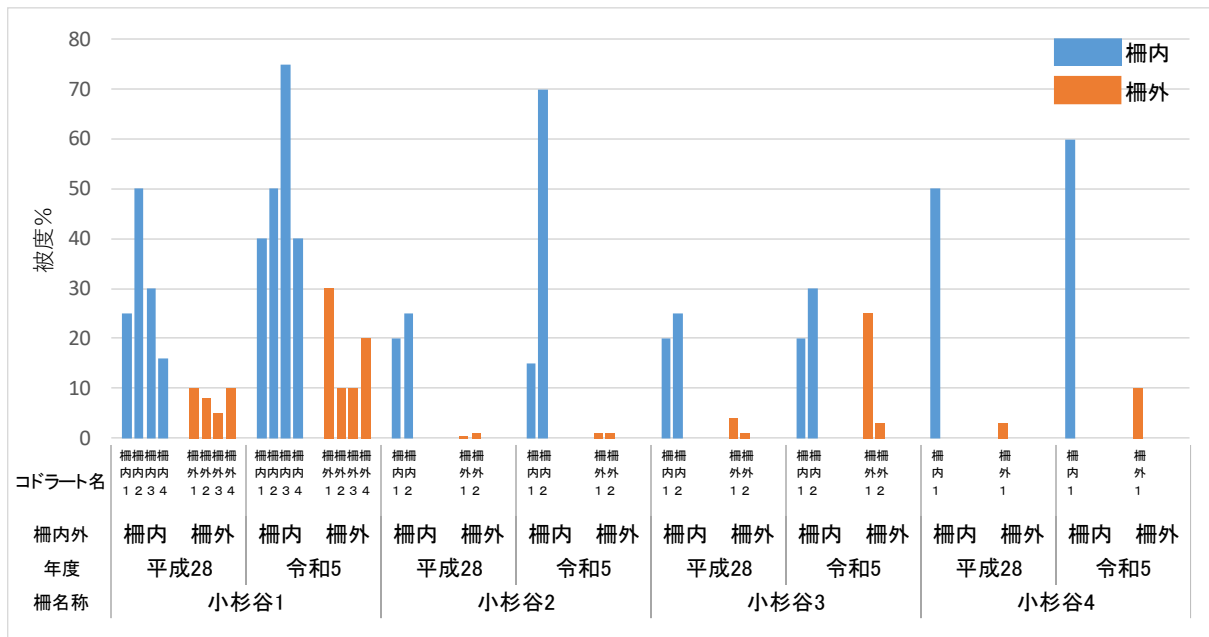


図3 植生保護柵内外の植被率の比較

(3) 国内希少野生動植物種の生育状況

- ・ 植生保護柵内外における調査の結果、種の保存法に基づき国内希少野生動植物種に指定されている種のうち、シマヤワラシダ、ヤクシマタニイヌワラビ、アオイガワラビ、ホソバシケチシダの4種が確認された（図4）。
- ・ 柵内外の各種の個体数を表1に示す。柵内では、小杉谷1のホソバシケチシダを除き、個体数が増加した。柵外では、平成28年度に、小杉谷3でヤクシマタニイヌワラビが確認されたが、今年度は消滅しており、その他の国内希少野生動植物種は柵外では確認されなかった。

表1 植生保護柵内外の国内希少種の個体数

種名	年度	小杉谷1		小杉谷2		小杉谷3		小杉谷4	
		柵内	柵外	柵内	柵外	柵内	柵外	柵内	柵外
シマヤワラシダ	平成28	4						25	1?
	令和5	8						33	0
ヤクシマタニイヌワラビ	平成28					4	1		
	令和5					5	0		
アオイガワラビ	平成28							4	
	令和5							6	
ホソバシケチシダ	平成28	2							
	令和5	2							

※ ?は小型のため同定が不確実であったもの

	
シマヤワラシダ	ヤクシマタニイヌワラビ
	
アオイガワラビ	ホソバシケチシダ

図4 各地点で確認された国内希少野生動植物種